

コウノトリ人工巣塔の設置について

1 背景

5月9日（日）にライオンズクラブ国際協会333-B地区から人工巣塔の設置に係る寄付をいただいたことから、渡良瀬遊水地及び周辺において、営巣環境を整備し、周辺に飛来しているコウノトリの定着と野外繁殖につながるよう新たな人工巣塔を2基設置するもの。

2 概要

(1) 設置場所等について

- ・渡良瀬遊水地及び周辺部を候補地として、関係者からの意見聴取などにより調整中。
- ・候補地が遊水地内となった場合、河川管理者である国土交通省との協議を要することから、協議用資料作成等の調査業務を実施する予定。
- ・令和4年3月末までの設置完了を目標とする。

(2) 渡良瀬遊水地周辺における現状について

- ・第2調節池内の人工巣塔において、今年3月末に、コウノトリ「ひかる」と「レイ」のペアにヒナが誕生した。
- ・東日本初となった昨年5月末に続き、2年連続で野外繁殖となった。
- ・「ひかる」と「レイ」のほか、令和2年5月に遊水地で生まれた「ゆう」、令和元年に野田市が放鳥した「カズ」なども遊水地周辺に飛来している。

(3) 国内の現状について

- ・兵庫県豊岡市、千葉県野田市など全国各地でコウノトリの保全と野生復帰を目指した取り組みが進められている。
 - ・生息域内（野外）のコウノトリ個体数 217羽（2021年4月1日現在）
 - ・生息域外（飼育）のコウノトリ個体数 185羽（2020年12月末現在）
- ※個体数は、I P P M－O W S（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）のホームページより引用

3 設置による効果等について

- ・新たな人工巣塔の設置により、これらの個体の定着と新たなペアの誕生につながることを期待される。
- ・コウノトリのエサ場の確保のための巣塔周辺の環境整備のほか、周辺水田における環境にやさしい農業の推進等により、人とコウノトリが共生できる地域づくりを図ることができる。
- ・コウノトリをシンボルとした自然環境の保全と再生の取組みにより、ラムサール条約の目的である「湿地の保全・再生」と「賢明な利用」、 「交流・学習・普及啓発」の推進を図ることができる。

4 設置予定の巣塔（イメージ）※小山市の事例



5. その他の取り組み

巣塔周辺の環境整備やコウノトリをシンボルとした自然環境の保全と再生の取り組みを全国の皆さんに知っていただくとともに、賛同をいただいた方からの寄附を募るため、栃木市ふるさと納税使い道コースに「コウノトリ生息地環境整備事業」を追加する。

また、本市としては、初めての取り組みとなるガバメントクラウドファンディングに取り組む。

【問合せ】 地域振興部 渡良瀬遊水地課
担当：田村
Tel：0282-62-0919